

氏名	高 尾 総 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2096 号
学位授与の日付	平成12年3月31日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	腸管出血性大腸菌O157感染者における菌陰性化に要する期間についての検討
論文審査委員	教授 小熊 恵二 教授 吉良 尚平 教授 辻 孝夫

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1997年6月、岡山市内のR病院で腸管出血性大腸菌O157による集団感染事例が発生した。検便検査によって菌陽性と判定された86名（男性40名、女性46名；14歳－96歳、平均53歳）を対象とし、治療方法について調査を行った。抗生剤を投与された83名における菌陰性化に要する期間は投与から中央値で6日間であり、基礎疾患の有る成人での集団感染事例発生時の対策を考える上で有用な結果が得られた。年齢・性別などについて検討したが、菌陰性化期間に影響を及ぼす要因は認められなかった。菌陽性者のうち発症者の割合は、高齢者・女性・基礎疾患の有る者で高い傾向にあり、特に悪性腫瘍を基礎疾患とする患者では高かった。また無症状菌陽性者59名全員に抗生剤投与が行われたが、新たな発症や副作用は認められず、病院等ハイリスク・グループを収容する施設においては無症状菌陽性者への抗生剤投与は二次感染予防の観点から有益であると考えられた。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、1997年6月、岡山市内のR病院で発生した腸管出血性大腸菌O157による集団感染事例で、検便検査によって菌陽性と判定された86名（男性40名、女性46名；14歳-96歳、平均53歳）を対象とし、治療方法に関し詳細な調査を行い、1）基礎疾患のある成人が腸管出血性大腸菌O157に感染した場合、抗生剤投与開始後菌陰性化に要する期間は、菌の種類（VTあるいはVT1とVT2産生株）、患者の年齢や性別、基礎疾患や抗生剤の種類（ニューキノロンとホスホマイシン）などにかかわらず約1週間である、2）病院等ハイリスク・グループを収容する施設においては、基礎疾患の有無にかかわらず無症状菌陽性者に対する予防的抗生剤投与は二次感染予防の観点から有益と考えられる、などの点を明らかにした価値ある業績であると認める。よって、本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。